
マザーコンプレックス2

湖宇

タテ書き小説ネット Byヒナプロジェクト

<http://pdfnovels.net/>

注意事項

このPDFファイルは「小説家になろう」で掲載中の小説を「タテ書き小説ネット」のシステムが自動的にPDF化させたものです。この小説の著作権は小説の作者にあります。そのため、作者または「小説家になろう」および「タテ書き小説ネット」を運営するヒナプロジェクトに無断でこのPDFファイル及び小説を、引用の範囲を超える形で転載、改変、再配布、販売することを一切禁止致します。小説の紹介や個人用途での印刷および保存はご自由にどうぞ。

【小説タイトル】

マザーコンプレックス2

【Nコード】

N2006C

【作者名】

湖宇

【あらすじ】

お前は俺の友達なんだから、例えば俺がお前の母親じゃなくても、追い出したりしねーよ。

(前書き)

マザーコンプレックスの別視線です。

「母さん…」

ドアの向こうから聞こえた声は、
泣いていた。

マザーコンプレックス2

あいつはよくここへ来る。

帰る家があるはずなのに、

あいつは戻らない。

なぜかと聞けば、

待っている人間が居ないからだという。

「おい、起きろ」

そういつて、

ソファアを占領している人間の頭を、
はたいてみた。

すると、

凄い力で手を掴まれた。

それは『握る』とはいえない力だったから、俺は驚いて動けなかった。

「∴お前何してんの？」

「いや、お前が掴んだんだろ」

起きたこいつは、

掴んでいる自分の手か、

掴まれている俺の手を見ながら、

「こんなごっつい手じゃないんだよなあ」

といった。

「はあ？」

きつと寝ぼけているのかもしれない。

それに、

こいつの脈絡のない会話は、
日常茶飯事だ。

「腹減った」

「まずは、おはようだろ」

「オハヨウゴザイマス」

そういつて笑ったあいつは、
ちゃんといつものように、
笑えていた。

だから俺は、

『何かあったのか？』

とは聞かなかった。

「お母さん」

「誰がお母さんだ」

こいつの世話を焼く俺を、
友人達は母親のようだといって、
よくからかう。

からかうくせに、

こいつに何かあると、

いつも俺に連絡が来る。

昨日も、

酔ったこいつをここへ連れてきたのは、
こいつに酒を飲ませた友人達だ。

「なんか母さんみたいじゃん」

「俺は男だ」

何気ない会話だった。

「知ってる」

何気ない会話だったはずだ。

「けど、もう少しだけ」

なのに、

「俺のお母さんで居てよ」

そういったこいつの声は、
酷く真剣だった。

―俺のお母さんで居てよ。

いつものこいつらしい、
意味の解らない言葉。

それでも今日はどこか必死で、
こいつが何を抱えているかを、
知っている俺は、
かける言葉を思いつかなかった。

ただ、解るのは、

俺は母親って柄じゃない。
だろ？

だからさ、

「そんなものに拘らなくてもいいだろ」

お前の居場所が、
ここだっていうんなら、
ここにいればいい。

お前は俺の友達なんだから、
例え俺がお前の母親じゃなくても、

「別に追い出したりしねーよ」

一生一緒にいる関係なんて、
親子だけじゃねーんだから。

(後書き)

どこかでお互いが繋がっているから続く関係かもしれない。
彼の友情はこんな感じ。

PDF小説ネット発足にあたって

PDF小説ネット（現、タテ書き小説ネット）は2007年、ルビ対応の縦書き小説をインターネット上で配布するという目的の基、小説家になろうの子サイトとして誕生しました。ケータイ小説が流行し、最近では横書きの書籍も誕生しており、既存書籍の電子出版など一部を除きインターネット関連に横書きという考えが定着しようとしています。そんな中、誰もが簡単にPDF形式の小説を作成、公開できるようにしたのがこのPDF小説ネットです。インターネット発の縦書き小説を思う存分、堪能^{たんのう}してください。

この小説の詳細については以下のURLをご覧ください。
<http://ncode.syosetu.com/n2006c/>

マザーコンプレックス2

2010年10月9日05時03分発行